

調 査 概 要

調 査 期 間 : 2019年9月26日～2019年10月2日
 調 査 方 法 : 調査対象者に質問を配付し、記入後回収した。
 調 査 対 象 : 本学在学学生
 調 査 内 容 : 1. 個人生活について 2. 学内生活について
 3. 課外活動について 4. 本学全般について
 有効回答者数 : 1,584名

回答者内訳

●性別（設問1）

	男子学生	女子学生
人数（％）	763名（48.1％）	821名（51.8％）

●所属学科（設問2）

	大学院		
研究科・学科	人間福祉学研究科	生涯学習学研究科	生涯スポーツ学研究科
人数（％）	1名（0.1％）	1名（0.1％）	7名（0.4％）

	人間福祉学部		生涯学習システム学部	
学科	地域福祉学科	福祉心理学科	芸術メディア学科	学習コーチング学科
人数（％）	0名（0％）	0名（0％）	0名（0％）	0名（0％）

	生涯スポーツ学部	
学科	スポーツ教育学科	健康福祉学科
人数（％）	604名（38.1％）	93名（5.9％）

	教育文化学部		
学科	教育学科	芸術学科	心理カウンセリング学科
人数（％）	431名（27.2％）	88名（5.5％）	139名（8.8％）

	短期大学部	
学科	ライフデザイン学科	こども学科
人数（％）	37名（2.3％）	184名（11.6％）

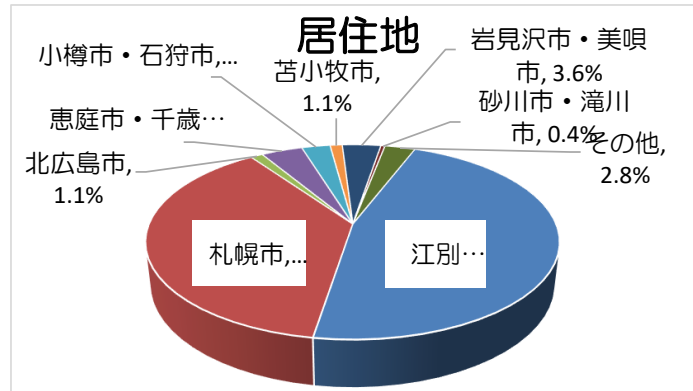
●学年（設問3）

	1年生	2年生	3年生	長期履修3年生
人数（％）	529名（33.4％）	466名（29.4％）	325名（20.5％）	17名（1.1％）

	4年生	長期履修4年生
人数（％）	249名（15.7％）	0名（0％）

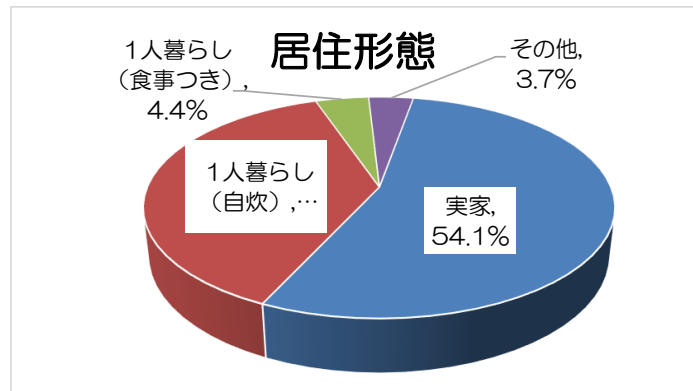
居住地について(設問4)

「江別市」の割合が最も高く46.7%であった。次いで「札幌市」37.7%であった。この傾向は2017年調査とほぼ同様で、大半の学生は大学近郊に居住しているが、2割弱の学生はその他の地域から通学していることが窺える。



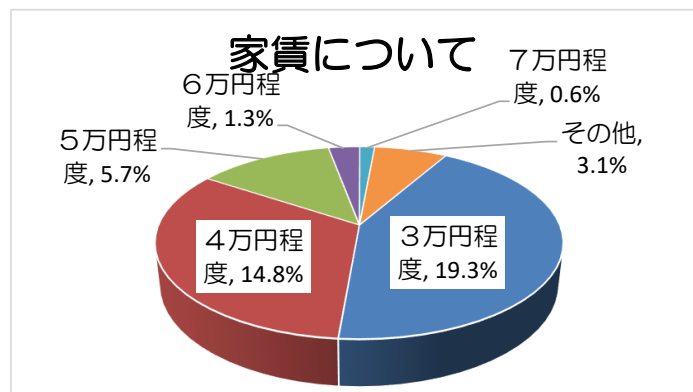
居住形態について(設問5)

「実家」の割合が最も高く54.1%、次いで「1人暮らし(自炊)」が37.9%で、この二つで9割を超えている。2017年調査と比較すると、「実家」と「1人暮らし」の差がやや小さくなっており(22.6ポイント→16.2ポイント)、「1人暮らし」をする学生がやや増えていることが窺える。



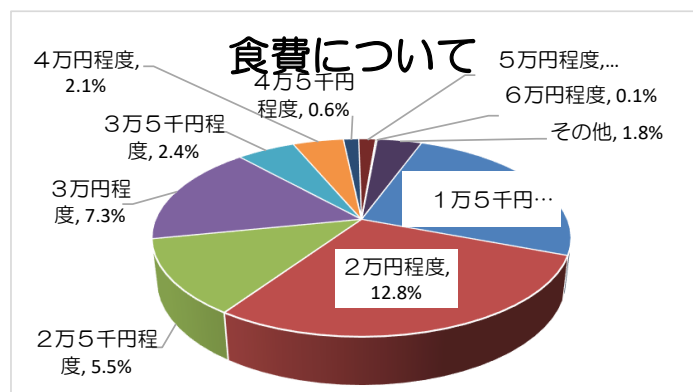
家賃について(設問6)

1人暮らしの家賃は、「3万円程度(19.3%)」「4万円程度(14.8%)」が大半を占めている。おおむね、ワンルーム～1K、1DKの家賃額に相当すると思われる。



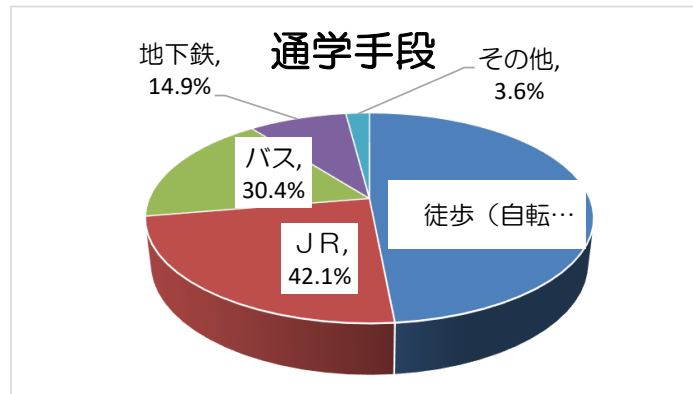
食費について(設問7)

1人暮らしの一か月の食費(おやつ代を除く)で最も高い割合は「2万円程度」の12.8%だったが、幅広い分布が認められた。「1万5千円程度」は一日500円程度であり、「3万円程度」は一日1,000円程度である。自炊から中食、外食中心まで、多様な生活形態が窺える。



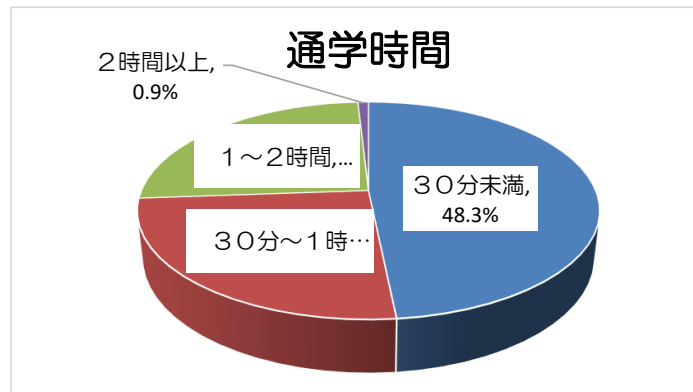
通学手段について(設問8)

「徒歩(自転車)」の割合が85.7%と高いが、「あてはまるものをすべて」選ぶ回答形式であることが反映されており、徒歩圏内に居住する学生以外も選択した結果と思われる。他方、「JR(42.1%)」「バス(30.4%)」「地下鉄(14.9%)」と公共交通機関の利用割合も高い。JRを利用している割合が最も高いが、複数の公共交通機関を乗り継いで通学している学生も少なくないことが窺える。



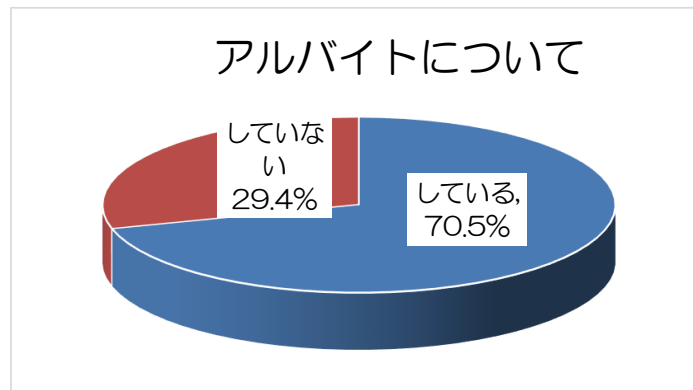
通学時間について(設問9)

「30分未満」が48.3%で約半数を占め、「30分～1時間(25.4%)」、「1～2時間(25.2%)」が同程度の割合だった。2017年調査とほぼ同様の割合である。



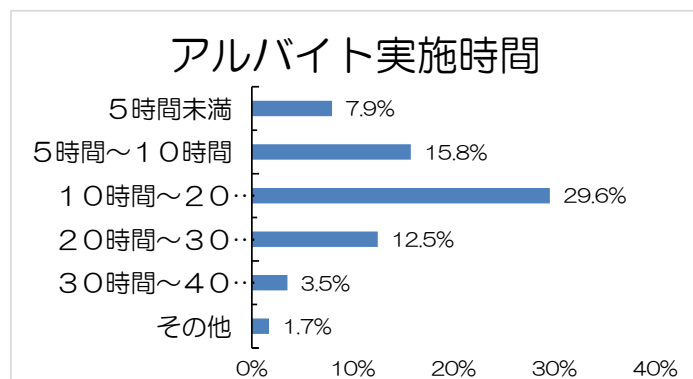
アルバイトについて(設問10)

現在アルバイトをしている学生は70.5%であった。2015年調査では63.1%、2017年調査では67.2%の学生が調査時点でアルバイトをしており、微増傾向であることが窺える。



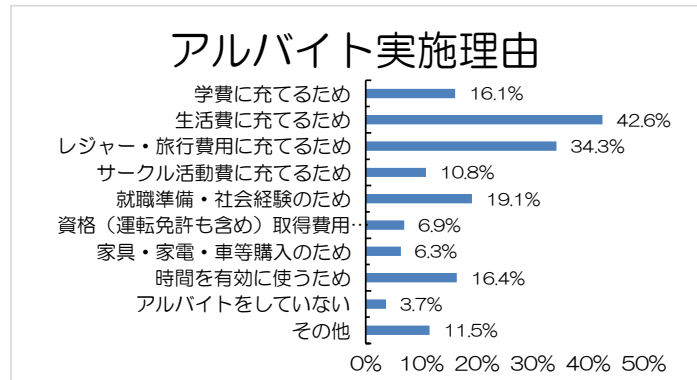
アルバイト実施時間について(設問11)

「10時間～20時間」の割合が最も高く、29.6%であった。2015・2017年調査でもこの時間数の割合が最も高く、設問10の調査時点でのアルバイト従事の割合と同様に、微増傾向である(2015年調査21.1%、2017年調査24.9%)。他方、20時間を超える割合は徐々に低下している(2015年調査23.3%、2017年調査22.1%、本調査17.7%)。



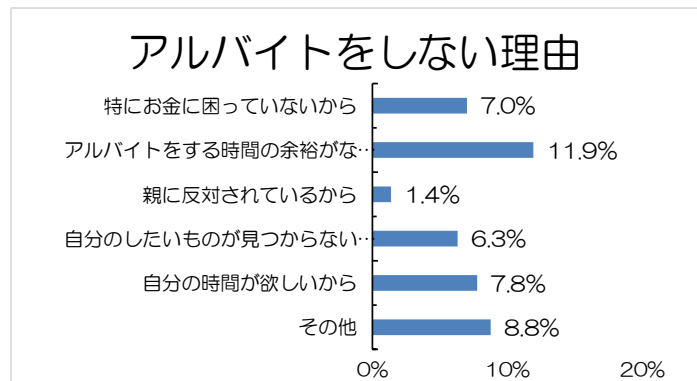
アルバイト実施理由(複数回答)(設問12)

過去調査と同様、「生活費に充てるため」が42.6%で最も高い割合だった。次いで、「レジャー・旅行費用(34.3%)」「就職準備・社会経験(19.1%)」と続く傾向も過去調査と同様である。なお、2017年調査では「生活費(32.0%)」「レジャー(14.0%)」であり、そのほかの選択肢の回答割合もおおむね2019年調査の方が上昇している。アルバイト実施理由が多様化していることが窺える。



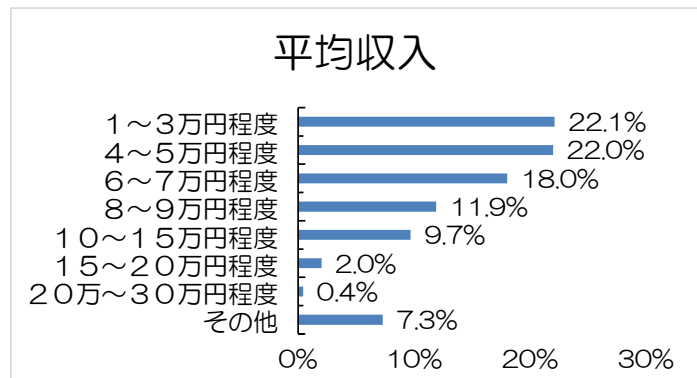
アルバイトをしない理由(設問13)

アルバイトをしない理由について、「アルバイトをする時間の余裕がない」とする割合が最も高く11.9%だが、以降は「その他(8.8%)」「自分の時間が欲しいから(7.8%)」「特にお金に困っていないから(7.0%)」「自分のしたいものが見つからないから(6.3%)」と同程度の割合の回答が続く。このうち、「自分の時間が欲しいから」は今回新たに追加された選択肢だが、アルバイトをしない理由も多様化していることが窺える。



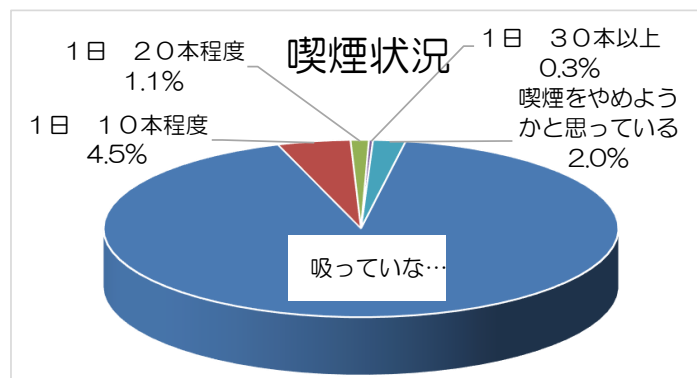
平均収入について(設問14)

家族からもらう仕送り金、アルバイト代などを合算した1ヶ月の平均収入は、「1～3万円程度」22.1%・「4～5万円程度」22.0%であり、約半数の学生が5万円程度以内の収入で暮らしていることが窺える。



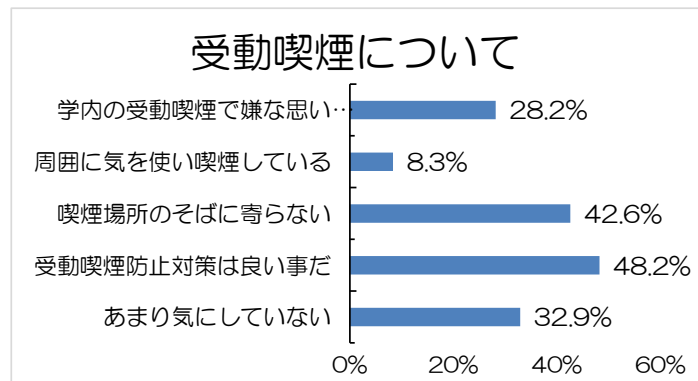
喫煙状況について(設問15)

現在たばこを吸っていない学生は91.3%であり、2015年調査の87.1%、2017年調査の89.4%から微増傾向が続いている。



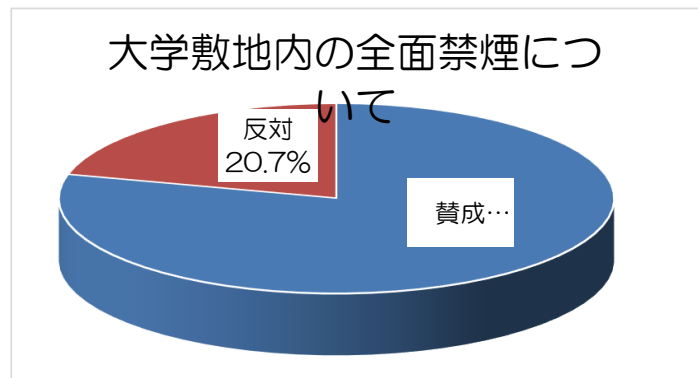
受動喫煙について(設問16)

受動喫煙の感じ方について、「学内の受動喫煙で嫌な思いをした」学生が28.2%であった。さらに、約半数の48.2%が「受動喫煙防止対策は良い事だ」と評価している。他方、「喫煙所のそばに寄らない(42.6%)」「あまり気にしていない(32.9%)」という学生も一定数おり、また喫煙をしている学生のほとんどが「周囲に気を使い喫煙している(8.3%)」を選択していることが窺える(* 設問15より、現在喫煙をしている学生の割合は8.7%)。



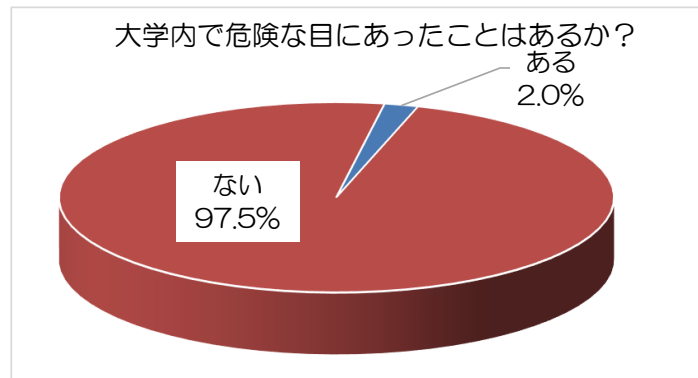
大学敷地内の全面禁煙について(設問17)

大学敷地内の全面禁煙化について、「賛成」が78.0%であった。ほとんどが賛成である一方、現在喫煙している学生の割合(8.7%)よりも「反対」の割合が多く(20.7%)、反対理由を精査する必要がある。



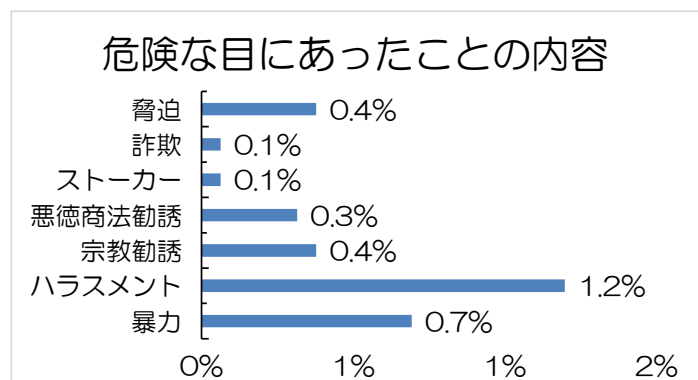
大学内で危険な目にあったことはあるか?(設問18)

大多数である97.5%の学生が、大学内で危険な目にあったことは「ない」と回答しているが、2.0%の学生は危険な目にあったことが「ある」と回答している。



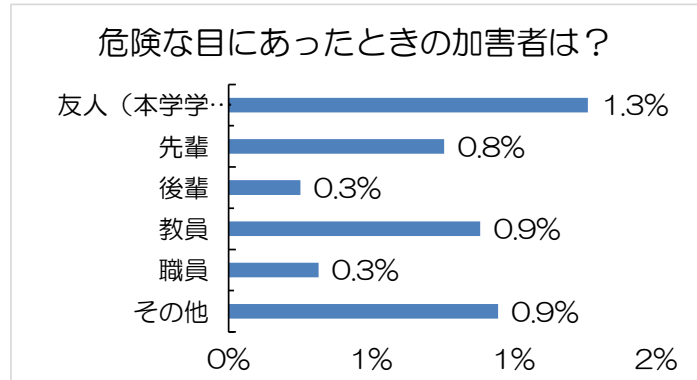
危険な目にあった内容について(設問19)

大学内で危険な目に合ったことがある学生が遭遇した具体的な内容で最も多いのは「ハラスメント(1.2%)」で、次いで「暴力(0.7%)」であった。



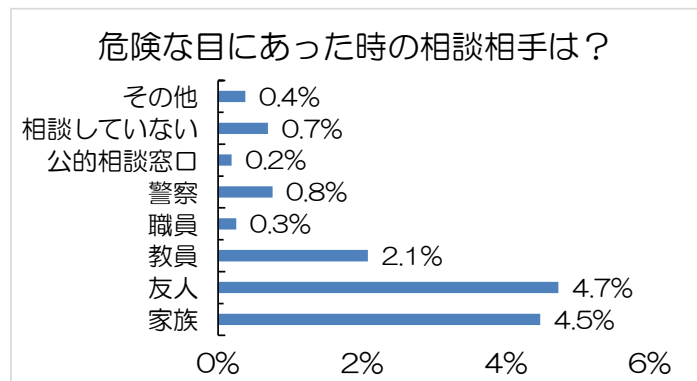
危険な目にあった時の加害者は？（設問20）

危険な目にあわせた相手として、「友人（本学学生）」が1.3%と最も高い割合だった。なお、「友人」なのか「（先輩・後輩以外の）本学学生」なのか、その関係性はこの回答からだけでは判断できない。また、「先輩（0.8%）」「教員（0.9%）」と力関係が上位のものから、危険な目に遭わされていることも多い。具体的な内容で最も多いのが「ハラスメント」であることも考えると、自覚的・無自覚的を問わず、ハラスメント行為についての認識を一層周知する必要がある。



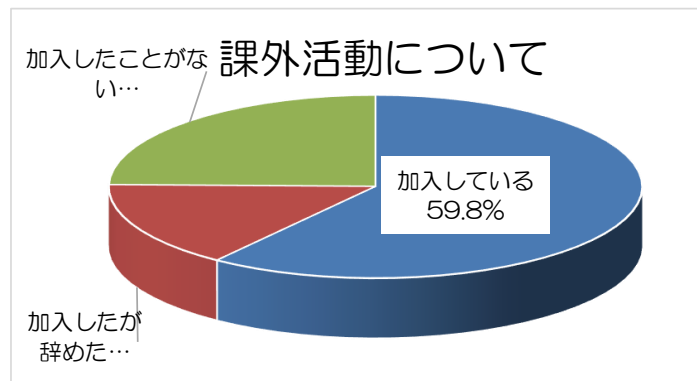
危険な目にあった時の相談相手は？（設問21）

危険な目に遭ったときの相談相手は、「友人（4.7%）」と「家族（4.5%）」が高い割合で選ばれる傾向にあった。身近な相手が相談相手として選ばれやすいことが窺える。次いで「教員」の2.1%だが、「相談していない」が0.7%、大学外の相談窓口（「公的相談窓口」「警察」）が1.0%であることを考えると、学内の相談資源および相談しやすい教職員の関係づくりの一層の充実が望まれる。



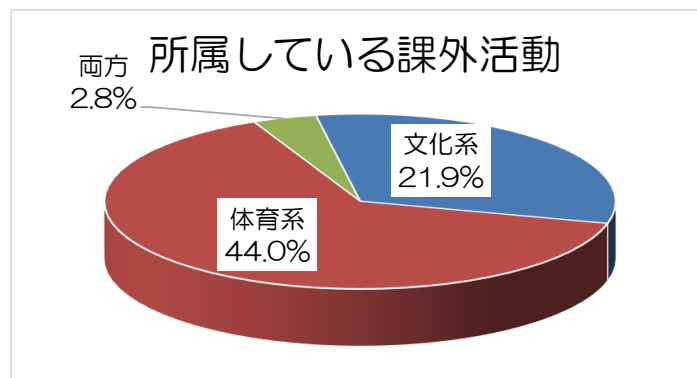
課外活動について（設問22）

現在、本学学生団体の部活、サークル、研究会等に参加しているかどうかの問いについて、「参加している」が59.8%だった。全学生の約6割が本学学生団体の課外活動に参加していることになり、2017年調査と同程度の傾向だった。



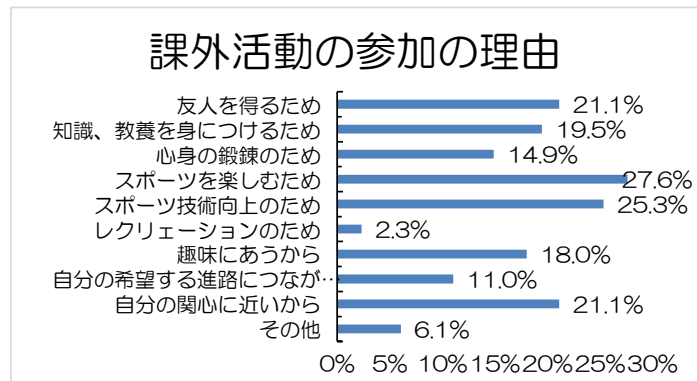
課外活動の所属について（設問23）

所属している本学学生団体の課外活動について、「体育系」が44.0%、「文化系」が21.9%であり、2017年調査とほぼ同様の割合であることが示された。



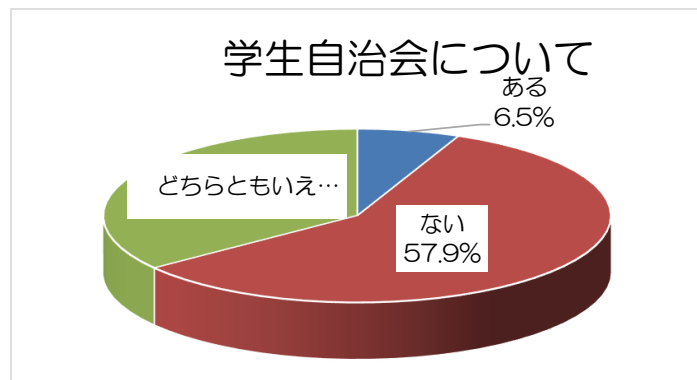
課外活動の参加理由について(設問24)

学生団体に加入した動機(3点以内)について、「スポーツを楽しむため(27.6%)」「スポーツ技術向上のため(25.3%)」「友人を得るため(21.1%)」「自分の関心に近いから(21.1%)」などが高い割合だった。上位二つについては「体育系」の所属学生が多いことから妥当と思われる一方、友人作りや教養を高めるため等の多様な理由で課外活動を行っていることが窺える。



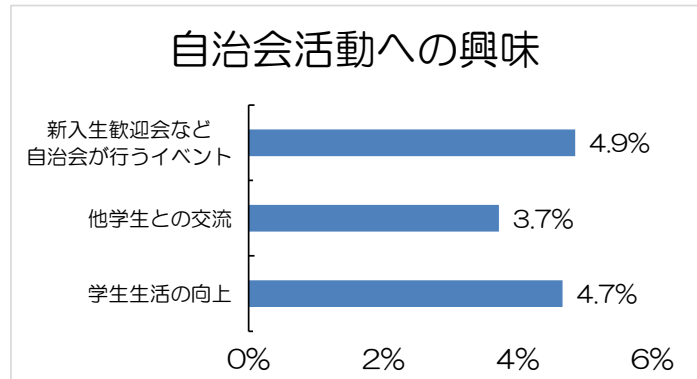
学生自治会について(設問25)

学生自治会活動への興味・関心について、「ない」が57.9%だった。2015年調査は52.3%、2017年調査は54.8%が「ない」と回答していたことから、自治会活動に関心がない学生が徐々に増加していることが窺える。



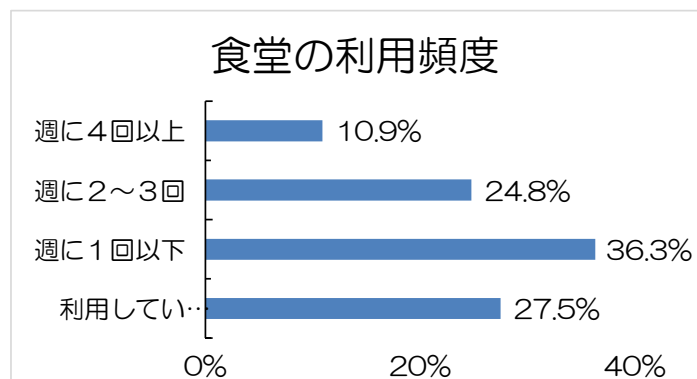
学生自治会活動への興味について(設問26)

学生自治会活動に興味・関心が「ある」と答えた学生を対象に、どんな活動に興味があるかを尋ねたところ、「自治会が行うイベント」が4.9%、「学生生活の向上」が4.7%、「他学生との交流」が3.7%だった。自治会活動に関心を持つ学生は、自治会の多様な活動に関心を持っていることが窺える。



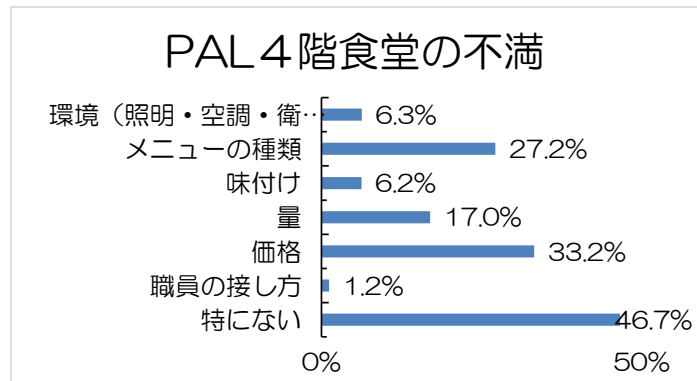
食堂の利用について(設問27)

PAL4階食堂メニューの利用頻度について、「週に1回以下」が36.3%で、「利用していない」も27.5%だった。過去調査同様に、定期的に利用する学生が少ない状況が窺える。



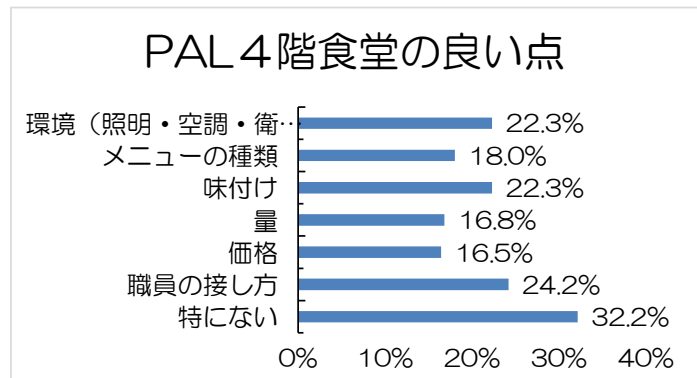
PAL4階食堂の不満は？（設問28）

PAL4階食堂の不満について、「特にない」が46.7%と半数近くの学生が特に不満を感じていない一方で、「価格(33.2%)」と「メニューの種類(27.2%)」等に不満を持つ学生もいることが窺える。2015・2017調査でもこの2点への不満の割合が比較的高いが、「価格」が「メニューの種類」を上回ったのは今回の調査が初であり、「価格」への不満に特に注目する必要があるだろう。



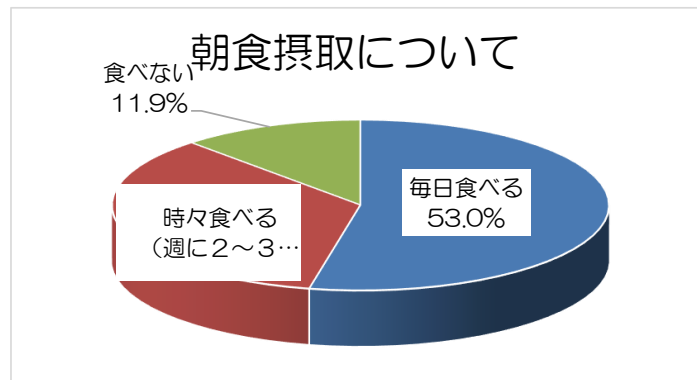
PAL4階食堂の良い点は？（設問29）

PAL4階食堂の良い点として、「職員の接し方(24.2%)」「環境(照明・空調・衛生)(22.3%)」「味付け(22.3%)」等複数項目への回答が確認されたが、他方で最も高い割合で選ばれた回答が「特にない」の32.2%だった。設問28より、「不満」も「特にない」とする回答が最多であったことから、PAL4階食堂に対して「良い」とも「不満」とも思っていない学生が一定数存在することが窺える。



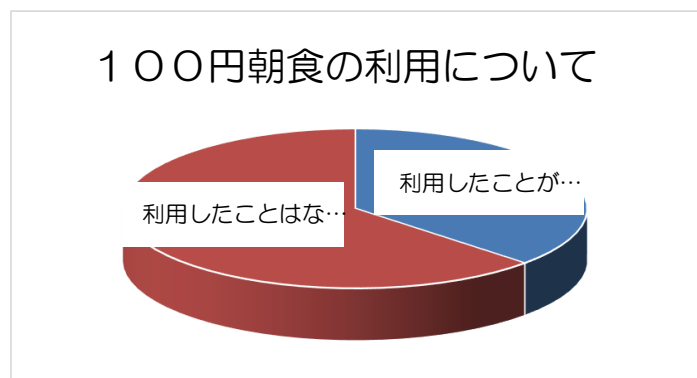
朝食について（設問30）

朝食摂取の頻度について、「毎日食べる」が53.0%と半数以上であったのに対し、「時々食べる(週に2～3回)」が34.6%、「食べない」が11.9%と、朝食が習慣化していない学生も半数近くいることが窺える。



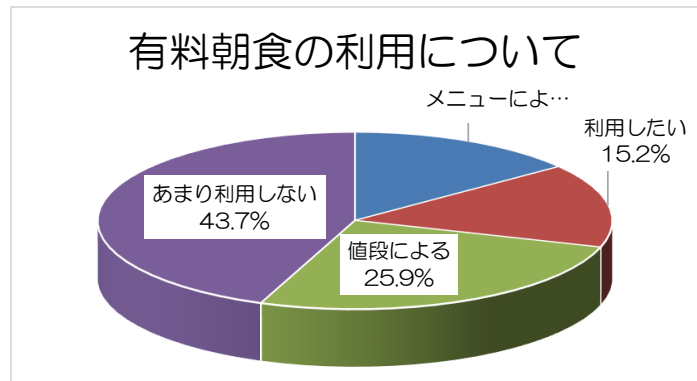
100円朝食の利用について（設問31）

期間限定で実施している100円朝食について、「利用したことがある」学生は36.8%だった。2017年調査では「利用したことがある」割合は31.6%であったことから、利用者が増加していることが窺える。



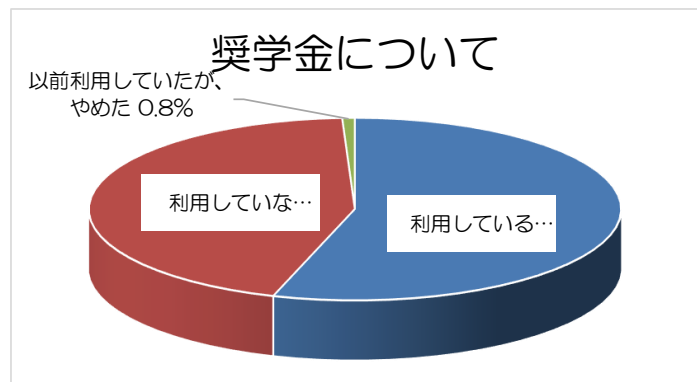
有料朝食について(設問32)

朝食を有料で提供した場合の利用の希望について、最も多かった回答は「あまり利用しない」の43.7%で、「利用したい」は15.2%に留まった。他方で、「メニューによる」が14.4%、「値段による」が25.9%と、メニューや値段しだいでは潜在的なニーズを引き出せる可能性もある。



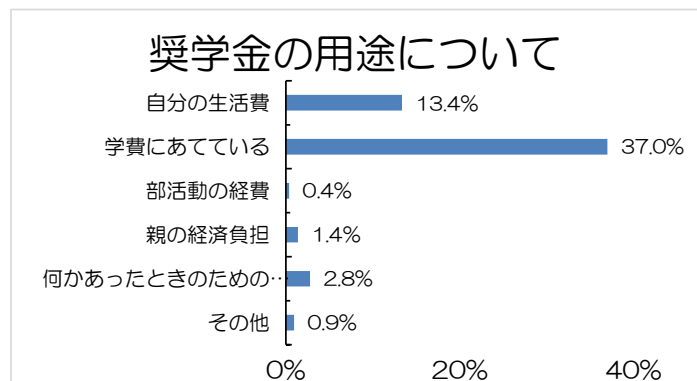
返済が必要な奨学金について(設問33)

返済が必要な奨学金について、「利用している」が54.6%と半数を超える学生が奨学金を利用している。2015年調査では57.5%が、2017年調査では55.8%が「受給している」と回答していることから、ほぼ横ばいから微減傾向であることが窺える。



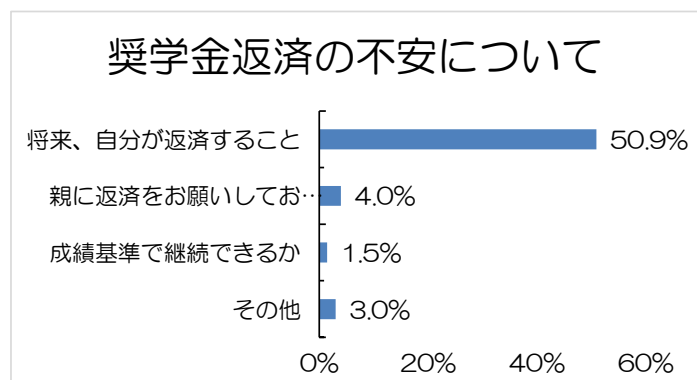
奨学金の用途について(設問34)

奨学金の用途について、「学費にあてている」が37.0%と最も高い割合で、次いで「自分の生活費(13.4%)」であった。この2件が奨学金用途の大半を占めており、利用している学生にとって奨学金は必要不可欠であることが窺える。



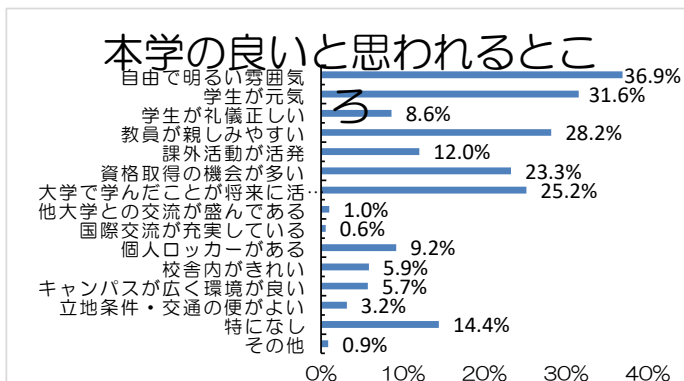
奨学金返済の不安について(設問35)

奨学金返済の不安について、ほとんどが「将来、自分が返済すること(50.9%)」を回答した。将来に不安を感じながらも、奨学金を利用せざるを得ない状況が窺える。



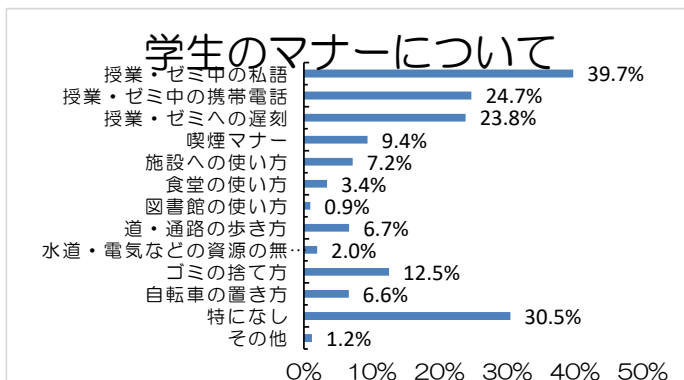
本学の良い点について(設問36)

本学の良いと思われる項目(3点以内)について、「自由で明るい雰囲気(36.9%)」「学生が元気(31.6%)」「教員が親しみやすい(28.2%)」が上位だった。「自由」「明るい」「元気」「親しみやすい」などを学生は特に魅力に感じていることが窺える。次いで、「大学で学んだことが将来に活かせる(25.2%)」「資格取得の機会が多い(23.3%)」であり、将来の目標の実現にも魅力を感じている学生が多い。他方、「他大学との交流(1.0%)」「国際交流(0.6%)」などの学外との交流機会は良い点にあがりにくい。これらの傾向は、2015・2017年調査とほぼ同様だった。



学生のマナーについて(設問37)

学生の学内でのマナーが悪いと思われる項目(3点以内)について、「授業・ゼミ中の私語」が39.7%と最も高い割合で選ばれた。「良い点」における「自由」「明るい」「元気」との折り合いも重要かもしれない。「私語」に次いで多かったのは「特になし」の30.5%で、過去調査よりも増加している。このほか、「授業・ゼミ中の携帯電話(24.7%)」「授業・ゼミへの遅刻(23.8%)」も高い割合で選ばれていた。



改善・充実してほしい施設・設備について(設問38)

大学に対して改善・充実してほしい施設・設備(3点以内)について、「冷暖房(32.2%)」「食堂・購買(27.3%)」「トイレ(25.3%)」「教室や実習・演習室(21.4%)」「休憩所(20.3%)」等が特に高い割合だった。特に「冷暖房」は今回の調査からの項目だが、多くの学生が冷暖房の改善を求めており、自由記述からもその切実さが窺える。2017年調査からの比較では、「教室や実習・演習室」の改善・充実の要望が低下したのに対し、「トイレ」が上昇した点が注目される。自由記述では、トイレの数や清潔さ(におい)のほか、送風機やせつけんへの要望も目立った。

